

海外進出ステップアッププログラム「セミナーB実施レポート」

10月28日に第2回となるセミナーB「作品を企画し売り込むことを考えよう」を開催いたしました。前半はJerome氏より、国際共同制作におけるピッチの役割、後半は鮎貝氏より、具体の作品の企画を用いてピッチとピッチ資料についての解説をしていただきました。両名とも海外を舞台に作品の企画等に携わられており、海外のアニメーション業界の現場について解像度が高まるセミナーとなりました。

セミナーB「作品を企画して売り込むことを考えよう」 講演内容ご紹介

Owner/Founder/Executive Producer, Jerome Mazandarani Consulting

Jerome Mazandarani氏

「What is important in international co-production?」

- コンサルタント兼アドバイザーのお立場から、国際共同制作の現場で最も大切なピッチについて、どのようなスタンスで何を相手に伝える必要があるのかという点を体系的に解説いただきました。
- 特に、ピッチ・ストーリーテリングのスキルは、アニメーション制作の商談スキルにとどまらず、人生にとって必要な大事なスキルだというメッセージが非常に印象的でした。
- ピッチの構成要素は、ストーリー、マーケット、マネタイズの3点に整理できるとして、それぞれのポイントを解説いただきました。ストーリーのフックや登場人物が立ち向かう困難に加えて、時代性を伝えることが大事だということ等を説明いただきました。



Jerome氏によるセミナーの様子

ライター・プロデューサー

鮎貝 義家氏

「作品の企画を考えるとときのヒント/作品企画を伝えるためのピッチについて ～Pitching for the World:From Japan to Annecy～」

- 鮎貝講師からは、ご自身がピッチを受ける側からピッチをする側になったことも踏まえて、どのようにピッチをするか、どのような資料を用意するかを、実例を交えながらご紹介いただきました。
- ピッチで重要なことは、内容を理解してもらうことではなく、興味を持ってもらうことであり、ピッチには意外性や感情性、簡潔性、ピッチをする人には、パッション、ビジョン、信頼性が求められていることを説明いただきました。
- 後半は、鮎貝氏の企画である「MAH JONG PAI」と「SHAROCK SAM」を例にして、どのように資料を構成するのか、どこにポイントを置いてピッチするのかを教えていただきました。1年ぶりの講演で、両企画とも内容がパワーアップしており、事務局としても企画の完成を期待しています。
- ピッチビデオのサンプルも披露いただき、ピッチはエンターテインメントである、ということを教えていただき、これからピッチを作っていく受講者の皆様にとって大きな示唆をいただきました。



鮎貝氏によるセミナーの様子